

大磯町立大磯小学校

研究テーマ：児童一人ひとりの主体的・対話的で深い学びを目指して

1 実践の目的

本校は「おだやかに 自ら学び 共に育つ」を学校教育目標にしている。本校児童は、与えられた課題に対しては前向きに取り組むことのできる児童が多いと感じる。その反面、自分の考えや思いはあっても言葉にして伝え合うことに自信をもてなかったり、課題に集中できず違うことに目移りしてしまったりする児童がいるところに課題を感じている。主体的・対話的である授業を目指すことで児童が「やってみたい」「友達と考えたらできた」などの実感が湧けると考える。課題に対して「共に」学び合うことができるようにするために研究を行う。

2 実践の内容

(1) 年間計画

6月 今年度の研究について

8月 「児童一人ひとりの主体的・対話的で深い学びを目指して～「共に」を意識した授業づくり

横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校・中学校 青木 弘校長講義

9月 「通常の学級における特別支援教育の視点を生かした授業づくり～教育のユニバーサルデザイン～」

星槎大学大学院教育実践研究科 阿部 利彦教授講義

10月 研究中間報告会（25日）

1月 「共に」を意識した授業づくり UD の視点を取り入れた授業を考える

星槎大学客員研究員

上條 大志氏講義

2月 「共に」を意識した授業づくり 算数科における授業の工夫について

横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校 丸山 健太郎教頭講義

相互授業参観週間（5日～9日）

研究部今年度のまとめ（9日）

(2) 研究会の様子

《初回の研究会》

事前に大磯小の児童の課題点や教員が抱える困り感、研究で行いたいことをそれぞれ考えてもらい、研究会で意見交流を行った。

大磯小の児童につけさせたい力や研究を通して行いたいことなどの意見交流ができた。

研究で行いたいこと

- ・話し合い活動
- ・スモールステップをふんだ授業
- ・思考ツールを取り入れた授業づくり
- ・授業展開の方法

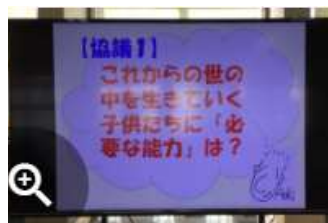
つけさせたい力

- ・人との対話力
- ・グループで課題を解決する力
- ・聴く力

《青木講師による講義》

「児童一人ひとりの主体的・対話的で深い学びを目指して

～「共に」を意識した授業づくり～



今年度は3名の講師の方にそれぞれのテーマで講義をしていただいた。講義の中で教員同士の意見を交流する時間があり、思いを共有したり普段の授業を改めて振り返ったりすることができた。

3 実践の成果

授業の中でペア・グループでの話し合い活動を取り入れることで、自分の意見を「発信したい」と感じる児童が増えてきたように感じる。また、課題につまずいたり、活動を一人で行うことが難しかったりする児童がいたら、様子をうかがって自然と手伝う児童の姿も見られてきた。授業を通して、児童同士の繋がりが深まったと感じる。またタブレット端末を利用することで、書くことに対して苦手意識をもつ児童も課題に集中して取り組むことができ、効果的であった。

2月に行った「相互授業参観週間」では、

お互いの授業を参観することで、教員それぞれの長所や授業づくり、学級経営について知ることができた。学級の様子を客観的に見ることや自分の授業との違いに気付くこともできた。また参観した教員から「共に」「ユニバーサルの視点」「真似したいこと」などの観点から意見をもらうことで、自信やモチベーションが上がり資質向上につながった。

4 今後の展開

今年度の具体的な課題として、校内全体で授業の検討や協議をする機会が少なかったことが挙げられる。次年度は、学年や個人だけで研究するのではなく、他の教員の授業をもっと参観する機会を増やしていきたいと考える。

また、協働学習を生み出す思考ツールを活用した板書などが上手くいかないという声も挙がった。その学習の意図、目的に合っているかどうかよく考えて試行錯誤していき、日常の授業から実践していかないと教員にも児童にも浸透していかない。つまり研究授業のための授業ではなく、日常の授業を改善していくことが必要であると考え

る。他にも、授業中のほとんどが教師主導の活動になってしまうことや支援を要する児童への対応、また、新任教師の加入や人事異動によって研究したことがなかなか教師に浸透していかない現状も課題である。

来年度は、今年度の研究をアウトプットしていきたいと考える。「お互いの授業参観週間」を学期ごとに設けたり、ブロック公開授業参観を行ったりする。1つの授業の中でそれぞれが感じるよさや課題点をみんなで共有するなどして、子どもたちが自ら学びたくなるような授業を目指し続ける。